

仮設住宅内のコミュニティづくり



● 活動のきっかけ

2011年春～秋にかけ、避難所から二次避難所、仮設住宅と生活の拠点が移っていく中で、元の地区・集落単位のつながりがバラバラになり、それまでのコミュニティが維持できず、住民が互いに分断された状態になっていきました。

特に、南三陸町では、抽選で入居者が決まった仮設住宅も多く、入居時点では、周りは知らない人ばかり、知人がどこに住んでいるかもわからないという方が多く見られました。

個人情報保護の観点から、町や県から一般の住民に入居者情報が提供されることはなく、集会施設の建設も遅れたところが多かったことも重なり、仮設住宅内のコミュニティ形成は簡単には進みませんでした。

このような状態が長期化すると、被災者の孤立がより深まる恐れがあったことから、復興みなさん会では設立直後から仮設住宅内のコミュニティづくりに取り組みました。

● 活動内容

① 仮設住宅マップの製作(2011年度)

会員が仮設住宅を戸別訪問して入居者から聞き取りをし、掲載許可の得られた世帯について、世帯主のお名前と元の集落・地区名を記載した「住宅マップ」を作成し配布する活動を行いました。



仮設住宅マップ

対象とした仮設住宅

- 平成の森仮設住宅 (歌津地区)
- 伊里前小学校仮設住宅 (歌津地区)
- 南方仮設住宅 (登米市南方)
- 柞沢地区仮設住宅 (歌津地区)
- 歌津中学校仮設住宅 (歌津地区)

② 住民交流のための植栽事業(2012年度～)

住民どうしの交流を深めるため、花の植栽活動や交流イベントを開催しました。

2012.7.4
南方仮設住宅



緑のカーテンづくり



仮設住宅での暮らしや、これからのまちづくりについて意見交換



2012.11.10
平成の森仮設住宅



スイセン・チューリップの植栽



芋煮で交流

2013.6.9
平成の森仮設住宅



植栽作業の様子



植栽2か月後の様子 (2013.8)

③ 住民どうしの交流の場の提供(2014年度～)

仮設住宅の入居者が減少しはじめ、外部支援者による活動も少なくなっていく中、仮設住宅やその周辺の方を対象とした交流の場づくりを続けました。

- ドコモショップ古川中央店、宮城県臨床心理士会「ママかふえ」との共催事業



夏休み親子であそぼう! こどもの広場
2014.8.9 平成の森キャンプ場



バレンタインチョコ作り
2015.2.14 平成の森仮設住宅集会所

● 活動の成果・発展

仮設住宅マップは、コミュニティ再生の最初の取り組みでした。発足直後の仮設住宅自治会にて支援物資配布の際などにも活用いただき、大変好評をいただきました。

仮設住宅での交流事業は、町の復興について正しい知識を得て復興への想いをみんなで共有する「復興てらこ屋」や、南三陸町の風土・文化・生活に根差した「椿」をテーマとしたまちづくり活動「南三陸 椿ものがたり復興」、復興公営住宅のコミュニティづくりに向けた活動などに展開していきました。

いただいた助成金・補助金等

- ちば元気ファンド 東日本大震災市民活動支援助成金「南三陸町絆再生コミュニティ復興支援事業」(2011～2012年度)
- 公益財団法人トヨタ財団 2012年度国内助成(冬助成) 東日本大震災対応「特定課題」助成金「南三陸町町民主体の復興に向けたまちづくり支援事業」(2012～2013年度)
- 宮城県 震災復興担い手NPO等支援事業補助金「復興公営住宅や高台移転団地等新しいコミュニティ形成に向けた町民活動支援事業」(2014年度)
- ジャパン・ソサエティ東日本大震災復興基金(ローズファンド) 助成金「南三陸椿ものがたり 子どももお年寄りも一緒に復興まちづくり」(2014～2015年度)
- 公益財団法人大阪コミュニティ財団 助成金(2015～2017年度)
- 公立大学法人宮城大学地域連携センター地域振興事業部「コミュニティ復興支援員設置実証業務」(2011年度)、「宮城大学災害対応支援事業」(2012～2013年度)

ご支援いただきありがとうございました。